

■ ふるさと探検 ～志那町吉田～

(人と地域が輝く常盤協議会 文化・子ども部会)

1 【活動の趣旨】

「ふるさと探検」は地域の歴史や文化などについて、子どもとおとながともに学ぶことによって、「ふるさと常盤」に対する誇りと愛着を深めることが出来るように行うものである。

2 【特徴的な活動内容】

平成26年から始まり今年で9回目となる「ふるさと探検」は、志那町吉田町内会の方にお世話になり、11月18日(土)に実施。センターを出発し、橘堂に到着。

通常15年に一度しか開帳されない橘堂内を町内会の方やボランティア協会の方からお話を聞き秘蔵の三面六臂観音菩薩立像を拝観した。県の有形文化財に指定されている約5,000平方メートルの広さがある吉田家住宅内を見学することが出来た。

西迎寺では、住職の井野さんから、町内の数ある小寺小庵を一つの寺にまとめて西迎寺になった。そのことにより天台宗と浄土宗の宗派が西迎寺に存在したことから檀家の話し合いにより、現在の浄土宗に統一されたなどのお話を聞いた。

三大神社では、町内の川井さんから、665年に「式内伊吹神社」として創建され、明治初期に今の「三大神社」に改名され境内には、「砂擦りの藤」といわれる古い藤の樹があることなどのお話を聞いた。

3 【実施に当たっての工夫】

読書グループ松葉会による「じおんにさま」という町内にまつわる尼さんの紙芝居を興味深く聞いた。例年であれば、常盤は俳諧の祖山崎宗鑑の生誕地であることから、感想を5・7・5の俳句で参加者全員が作成しているが、今年は省略した。

4 【事業の成果】

「ふるさと探検」は、常盤に長い間住んでいても、知らなかった、気づかなかったことを、毎年違う町を回っていくことで、改めて発見する機会となっている。

子どももおとなも「ふるさと常盤」の自然や、先人の築いた歴史・文化を大切にする気持ちを持つきっかけとなっしてほしい。

5 【事業実施上の課題・今後の連携・協働活動実施に向けて】

今後の連携・協働活動実施に向けて、子どもとおとなが学びあう地域協働合校として始めた「ふるさと探検」であるが、子ども達の生活が多様化しているため年々参加が減少しているのが課題である。歴史や文化の話は低学年には難しい内容であるが、より解りやすい説明を心掛けながら継続実施していきたい。

